

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5632578号

(P5632578)

(45) 発行日 平成26年11月26日(2014.11.26)

(24) 登録日 平成26年10月17日(2014.10.17)

(51) Int.Cl.

E O 4 H 1/02 (2006.01)

F I

E O 4 H 1/02

請求項の数 5 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2008-295055 (P2008-295055)
 (22) 出願日 平成20年11月19日(2008.11.19)
 (65) 公開番号 特開2010-121334 (P2010-121334A)
 (43) 公開日 平成22年6月3日(2010.6.3)
 審査請求日 平成23年10月28日(2011.10.28)

(73) 特許権者 307042385
 ミサワホーム株式会社
 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
 (74) 代理人 100090033
 弁理士 荒船 博司
 (72) 発明者 山本 博朗
 東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ
 サワホーム株式会社内

審査官 土屋 真理子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数階建てに構築されるとともに、勾配を有する屋根が上部に設けられた建物本体の中央に、この建物本体の上下方向に沿ってタワー部が設けられており、この建物本体の各階の床は、前記タワー部を挟んで、該タワー部の両側に配設され、前記各階の床上には居住領域がそれぞれ設けられており、

前記タワー部は、当該タワー部と前記両側の各居住領域とを仕切る壁で区切られている部分であり、

前記タワー部の両側に配設された各階の双方の床のうち、一方の床は、他方の床よりも高い位置に設けられており、

前記タワー部は、このタワー部の上下方向に沿って積層するとともに、前記建物本体の各階の床上にそれぞれ設けられる居住領域のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部と、

これら複数のユーティリティー部に隣接するとともに、前記建物本体内の各床をそれぞれ連絡する階段を有する階段室とを備えており、

前記各居住領域の壁のうち、前記タワー部側の壁と対向する壁には開口部がそれぞれ形成されており、

前記建物本体の最上層に位置する前記居住領域の上端部は、当該最上層の居住領域の前記開口部から取り込んだ外気を前記階段室に通じさせるための、前記階段室側に連通した高天井部とされ、

当該高天井部は、前記最上層の居住領域に設けられた前記開口部の高さ、当該最上層の居住領域に対向し、かつ前記建物本体の上層に位置する前記居住領域に設けられた前記開口部の高さよりも高い位置に設けられており、

前記屋根は、前記高天井部^上の上方に位置する大棟と、当該大棟から、前記最上層の居住領域に対向する前記上層の居住領域の前記開口部まで傾斜する屋根面とを備えており、

前記複数のユーティリティー部は、前記タワー部が上下に仕切られるとともに、前記階段室と仕切られることによって形成されていることを特徴とする建物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の建物において、

前記複数のユーティリティー部のうち、少なくとも一つは、天井高が 0.9 m ~ 1.4 m の収納空間とされていることを特徴とする建物。 10

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の建物において、

前記複数のユーティリティー部は、前記各階の双方の床と連続する高さに一体的に設けられる仕切り床によって上下に仕切られていることを特徴とする建物。

【請求項 4】

請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の建物において、

前記屋根には、前記建物本体の上層に位置する居住領域に面する天窓が開閉可能に設けられていることを特徴とする建物。

【請求項 5】

20

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の建物において、

前記タワー部の両側に配設された建物本体の 1 階の双方の床のうち、一方の床の上に設けられる居住領域は、床面の高さが、地上面と略等しい高さに設定された土間床部と、この土間床部よりも若干高い位置に設定された玄関部とを有しており、

前記土間床部はカーポートとして利用されていることを特徴とする建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅等の建物に関する。

【背景技術】

30

【0002】

従来、住宅等の建物において物品を保管、収容する場所として、建物内部には押入や納戸、床下収納庫、小屋裏収納部、天井裏収納部等の収納スペースが設けられ、また、屋外には物置等が設置されることがある。例えば、特許文献 1 に記載の建物は小屋裏収納室を備えている。

【特許文献 1】特開平 10-196138 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

ところが、特に都市部では敷地が比較的狭小であり、部屋をいくつも確保することが難しいため、例えば、特許文献 1 のような小屋裏収納室として用いていたスペースを、この小屋裏収納室の周囲の壁や天井を取り払った状態で使用することによって、ある程度の広さと高さに設定された部屋として利用したいという要望があった。 40

しかしながら、小屋裏収納室を始めとする収納スペースを建物内から無くしてしまうと、物品を収納するために収納家具を部屋内に配置しなければならなかったり、近年では、近隣のレンタル収納スペースを利用する場合もある。ところが、このように部屋内に収納家具を配置すれば部屋の有効利用面積は狭くなるし、レンタル収納スペースを利用すれば使用料がかかるので、好ましくない。

そこで、収納スペースを確保しながら、比較的多くの数の部屋も確保できる建物が望まれている。また、収納スペースだけに限られず、例えば趣味や家事のためのスペース、勉 50

強部屋としても利用できるようなスペース（以下、ユーティリティー部）を確保したいという要望もある。

【0004】

本発明の課題は、収納スペース等として利用できるユーティリティー部を確保しつつ、比較的多くの数の部屋も確保することが可能な建物を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

請求項1に記載の発明は、建物であって、例えば図1～図5に示すように、複数階建てに構築されるとともに、勾配を有する屋根1aが上部に設けられた建物本体1の中央に、この建物本体1の上下方向に沿ってタワー部5が設けられており、この建物本体1の各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bは、前記タワー部5を挟んで、該タワー部5の両側に配設され、前記各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b上には居住領域10～15がそれぞれ設けられており、

前記タワー部5は、当該タワー部5と前記両側の各居住領域10～15とを仕切る壁で区切られている部分であり、

前記タワー部5の両側に配設された各階2, 3, 4の双方の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bのうち、一方の床2a, 3a, 4aは、他方の床2b, 3b, 4bよりも高い位置に設けられており、

前記タワー部5は、このタワー部5の上下方向に沿って積層するとともに、前記建物本体1の各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b上にそれぞれ設けられる居住領域10, 11, 12, 13, 14, 15のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部6, 6…と、

これら複数のユーティリティー部6, 6…に隣接するとともに、前記建物本体1内の各床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bをそれぞれ連絡する階段7a, 7b, 7c, 7d, 7eを有する階段室7とを備えており、

前記各居住領域10～15の壁のうち、前記タワー部5側の壁と対向する壁には開口部12b, 13d, 14b, 15cがそれぞれ形成されており、

前記建物本体1の最上層に位置する前記居住領域14の上端部は、当該最上層の居住領域14の前記開口部14bから取り込んだ外気を前記階段室7に通じさせるための、前記階段室7側に連通した高天井部とされ、

当該高天井部は、前記最上層の居住領域14に設けられた前記開口部14bの高さと、当該最上層の居住領域14に対向し、かつ前記建物本体1の上層に位置する前記居住領域15に設けられた前記開口部15cの高さよりも高い位置に設けられており、

前記屋根1aは、前記高天井部の上方に位置する大棟と、当該大棟から、前記最上層の居住領域14に対向する前記上層の居住領域15の前記開口部15cまで傾斜する屋根面とを備えており、

前記複数のユーティリティー部6, 6…は、前記タワー部5が上下に仕切られるとともに、前記階段室7と仕切られることによって形成されていることを特徴とする。

【0006】

請求項1に記載の発明によれば、前記タワー部5が、このタワー部5の上下方向に沿って積層するとともに、前記建物本体1の各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b上にそれぞれ設けられる居住領域10, 11, 12, 13, 14, 15のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部6, 6…を備えているので、これら複数のユーティリティー部6, 6…を、例えば収納空間や勉強部屋、書斎、ウォークインクローゼット等として利用できるとともに、各居住領域10, 11, 12, 13, 14, 15のうちの任意の居住領域から、前記複数のユーティリティー部6, 6…を使用することができる。これによって、都市部等の狭小敷地であっても、前記建物本体1内に、収納やその他趣味や勉強、家事等にも利用できるスペースを確保することができるので、快適な居住環境を形成することが可能となる。

さらに、これら複数のユーティリティー部6, 6…を収納スペースや勉強部屋等として

利用できるもので、前記タワー部 5 を挟んで、該タワー部 5 の両側に配設される各階 2, 3, 4 の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上に収納スペース等を設ける必要がない。これによって、前記各階 2, 3, 4 の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上に、前記居住領域 1 0, 1 1, 1 2, 1 3, 1 4, 1 5 を確実に設けることができるので、従来に比して、比較的多くの数の部屋を確保することができる。

また、前記タワー部 5 が、前記複数のユーティリティー部 6, 6 … に隣接するとともに、前記建物本体 1 内の各床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b をそれぞれ連絡する階段 7 a, 7 b, 7 c, 7 d, 7 e を有する階段室 7 を備えているので、前記建物本体 1 内の高さの異なる床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 間を連絡する動線を確保することができる。これによって、前記建物本体 1 内の各床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 間を容易に行き来することができるので、前記複数のユーティリティー部 6, 6 … を利用しやすくなる。

10

【0007】

請求項 2 に記載の発明は、例えば図 1 に示すように、請求項 1 に記載の建物において、前記複数のユーティリティー部 6, 6 … のうち、少なくとも一つは、天井高が 0.9 m ～ 1.4 m の収納空間とされていることを特徴とする。

【0008】

請求項 2 に記載の発明によれば、前記複数のユーティリティー部 6, 6 … のうち、少なくとも一つが収納空間とされているので、前記各階 2, 3, 4 の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上に収納スペース等を設ける必要がない。

20

また、この収納空間の天井高を 0.9 m ～ 1.4 m とすることによって、この収納空間に人が入って、何とか作業ができる最低限の高さを確保できるとともに、建物本体 1 の高さを、隣接する建物に日照等の影響を及ぼさない程度に抑えることができる。

さらに、収納空間の天井高が 0.9 m ～ 1.4 m であれば、通常の部屋の半分程度に抑えられることになるので、天井高が 0.9 m ～ 1.4 m の収納空間とされたユーティリティー部 6 を、前記タワー部 5 の両側に配設された各階 2, 3, 4 の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上に設けられる全ての居住領域 1 0, 1 1, 1 2, 1 3, 1 4, 1 5 に割り当てることができる。

【0009】

請求項 3 に記載の発明は、例えば図 1 に示すように、請求項 1 または 2 に記載の建物において、

30

前記複数のユーティリティー部 6, 6 … は、前記各階 2, 3, 4 の双方の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b と連続する高さに一体的に設けられる仕切り床 6 a によって上下に仕切られていることを特徴とする。

【0010】

請求項 3 に記載の発明によれば、前記複数のユーティリティー部 6, 6 … は、前記各階 2, 3, 4 の双方の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b と連続する高さに一体的に設けられる仕切り床 6 a によって上下に仕切られているので、この仕切り床 6 a によって前記複数のユーティリティー部 6, 6 … を確実に上下に仕切ることができる。

また、前記仕切り床 6 a 上と、この仕切り床 6 a と連続する床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上との間を確実に行き来することができる。

40

【0011】

請求項 4 に記載の発明は、例えば図 1 および図 2 に示すように、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の建物において、

前記屋根 1 a には、前記建物本体 1 の上層に位置する居住領域 1 5 に面する天窓 8 が開閉可能に設けられていることを特徴とする。

【0012】

請求項 4 に記載の発明によれば、前記屋根 1 a に、前記建物本体 1 の上層に位置する居住領域 1 5 に面する天窓 8 が開閉可能に設けられているので、暖かい空気が上昇する性質を利用することで、前記階段室 7 を通じて建物本体 1 内の暖かい空気を前記天窓 8 から排

50

気することができ、温暖な時季において効率良く自然換気することができる。

【0013】

請求項5に記載の発明は、例えば図1および図3に示すように、請求項1～4のいずれか一項に記載の建物において、

前記タワー部5の両側に配設された建物本体1の1階の双方の床2a, 2bのうち、一方の床2aの上に設けられる居住領域10は、床面の高さが、地上面と略等しい高さに設定された土間床部10aと、この土間床部10aよりも若干高い位置に設定された玄関部10bとを有しており、

前記土間床部10aはカーポートとして利用されていることを特徴とする。

【0014】

請求項5に記載の発明によれば、前記居住領域10は、前記土間床部10aと玄関部10bとを有しており、この土間床部10aはカーポートとして利用されているので、都市部等の狭小敷地であっても、前記建物本体1内に、収納スペース等として利用できる複数のユーティリティー部6, 6…および比較的多くの部屋を確保しつつ、カーポートも確保することができる。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、建物本体の中央に設けられるタワー部が、このタワー部の上下方向に沿って積層するとともに、建物本体の各階の床上にそれぞれ設けられる居住領域のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部を備えているので、これら複数のユーティリティー部を、例えば収納空間や勉強部屋、書斎、ウォークインクローゼット等として利用できるとともに、各居住領域のうちの任意の居住領域から、複数のユーティリティー部を使用することができる。これによって、都市部等の狭小敷地であっても、建物本体内に、収納やその他趣味や勉強、家事等にも利用できるスペースを確保することができるので、快適な居住環境を形成することが可能となる。

さらに、これら複数のユーティリティー部を収納スペースや勉強部屋等として利用できるので、タワー部を挟んで、該タワー部の両側に配設される各階の床上に収納スペース等を設ける必要がない。これによって、各階の床上に、居住領域を確実に設けることができるので、従来に比して、比較的多くの数の部屋を確保することができる。

また、タワー部が、複数のユーティリティー部に隣接するとともに、建物本体内の各床をそれぞれ連絡する階段を有する階段室を備えているので、建物本体内の高さの異なる床間を連絡する動線を確保することができる。これによって、建物本体内の各床間を容易に行き来できるので、複数のユーティリティー部を利用しやすくなる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【0017】

本実施の形態の建物は、図1～図5に示すように、複数階建てに構築される建物本体1の中央に、この建物本体1の上下方向に沿ってタワー部5が設けられており、この建物本体1の各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bは、前記タワー部5を挟んで、該タワー部5の両側に配設されている。

また、前記タワー部5の両側に配設された各階2, 3, 4の双方の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bのうち、一方の床2a, 3a, 4aは、他方の床2b, 3b, 4bよりも高い位置に設けられている。

また、前記タワー部5は、このタワー部5の上下方向に沿って積層するとともに、前記建物本体1の各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b上にそれぞれ設けられる居住領域10, 11, 12, 13, 14, 15のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部6, 6…と、これら複数のユーティリティー部6, 6…に隣接するとともに、前記建物本体1内の各床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bをそれぞれ連絡する階段7a, 7b, 7c, 7d, 7eを有する階段室7とを備えている。

すなわち、本実施の形態の建物本体1は、各階2, 3, 4の床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4bが半階ずつずれて配置されるスキップフロアの様式を採っている。

【0018】

ここで、前記建物本体1は、図3から図5に示すように、1階2と2階3と3階4とからなり、これら各階2, 3, 4の前記タワー部5の両側に配設される床2a, 2b, 3a, 3b, 4a, 4b上には、上述のように居住領域10, 11, 12, 13, 14, 15が設けられている。

【0019】

すなわち、1階2の一方の床2a上には居住領域10が設けられており、1階2の他方の床2b上には居住領域11が設けられており、2階3の一方の床3a上には居住領域12が設けられており、2階3の他方の床3b上には居住領域13が設けられており、3階4の一方の床4a上には居住領域14が設けられており、3階4の他方の床4b上には居住領域15が設けられている。

【0020】

前記居住領域10は、図1～図3に示すように、床面の高さが、地上面と略等しい高さに設定された土間床部10aと、この土間床部10aよりも若干高い位置に設定された玄関部10bとを有しており、前記土間床部10aはカーポートとして利用されている。

これによって、都市部等の狭小敷地であっても、前記建物本体1内に、収納スペース等として利用できる複数のユーティリティー部6, 6…および比較的多くの部屋を確保しつつ、カーポートも確保することができる。

【0021】

前記居住領域11は、部屋11aと、トイレ・洗面室・風呂を備える水回り室11bとして利用されている。

なお、前記1階2の他方の床2bは、地上面と略等しい高さの一方の床2aよりも低い位置に設けられるので、この居住領域11は、半地下の状態となっている。

【0022】

前記居住領域12は、図1および図2, 図4に示すように、リビング12aとして利用されている。また、このリビング12aを囲む壁のうち、前記タワー部5側の壁と対向する壁に開口部12bが形成されている。また、この開口部12bの外側はバルコニーとなっている。

なお、この居住領域12は、前記階段室7との間にドア等が設けられておらず、該階段室7に向かって開放された状態となっている。

【0023】

前記居住領域13は、トイレ13aと、部屋13bと、この部屋13bから出入可能なウォークインクローゼット13cとして利用されている。また、部屋13bを囲む壁のうち、前記タワー部5側の壁と対向する壁に開口部13dが形成されており、この開口部13dの外側はバルコニーとなっている。

【0024】

前記居住領域14は、図1および図2, 図5に示すように、建物本体1の最上層に位置する部屋14aとして利用されている。また、この部屋14aを囲む壁のうち、前記タワー部5側の壁と対向する壁に開口部14bが形成されており、この開口部14bの外側はバルコニーとなっている。

【0025】

前記居住領域15は、ダイニング15aと、キッチン15bとして利用されている。また、これらダイニング15aおよびキッチン15bを囲む壁のうち、前記タワー部5側の壁と対向する壁に開口部15cが形成されている。

なお、この居住領域15は、前記階段室7との間にドア等が設けられておらず、該階段室7に向かって開放された状態となっている。

【0026】

また、前記建物本体1の上部には、図1および図2に示すように、屋根1aが設けられ

10

20

30

40

50

ている。この屋根 1 a には、前記建物本体 1 の上層に位置する居住領域 1 5 に面する天窓 8 が開閉可能に設けられている。

なお、暖かい空気は上昇する性質を備えている。したがって、このように屋根 1 a に天窓 8 が設けられることによって、前記階段室 7 を通じて建物本体 1 内の暖かい空気を前記天窓 8 から排気することができ、温暖な時季において効率良く自然換気できるようになっている。

【0027】

なお、図 2 に示すように、前記居住領域 1 2 と居住領域 1 5 とは、前記階段室 7 を通じて連通した状態となっている。また、前記居住領域 1 2 のリビング 1 2 a には、上述のように開口部 1 2 b が設けられており、前記居住領域 1 5 に面して天窓 8 が設けられているので、前記開口部 1 2 b から取り込んだ外気を、前記天窓 8 へと通過させることが可能となっている。

10

さらに、前記開口部 1 2 b から取り込んだ外気を、前記居住領域 1 5 の開口部 1 5 c へと通過させることもできる。

【0028】

また、前記居住領域 1 2, 1 5 だけでなく、前記居住領域 1 0 の玄関ドアや、前記居住領域 1 1 の部屋 1 1 a のドア、前記居住領域 1 3 の部屋 1 3 b の開口部 1 3 d およびドア、前記居住領域 1 4 の部屋 1 4 a の開口部 1 4 b およびドアを適宜開放させることで、図 2 に示すように、前記階段室 7 を通じて建物本体 1 内の自然換気を効率良く行うことができる。

20

【0029】

また、前記タワー部 5 は、上述のように該タワー部 5 の上下方向に沿って積層する複数のユーティリティー部 6, 6 …を備えている。

本実施の形態の複数のユーティリティー部 6, 6 …は、図 1 ～図 5 に示すように、前記居住領域 1 0, 1 1, 1 2, 1 3, 1 4, 1 5 の分設けられており、各ユーティリティー部 6, 6 が前記居住領域 1 0, 1 1, 1 2, 1 3, 1 4, 1 5 に向かって開口している。

【0030】

これら複数のユーティリティー部 6, 6 …は、前記各階 2, 3, 4 の双方の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b と連続する高さに一体的に設けられる仕切り床 6 a によって上下に仕切られており、この仕切り床 6 a によって前記複数のユーティリティー部 6, 6 …を確実に上下に仕切ることができる。

30

また、前記仕切り床 6 a 上と、この仕切り床 6 a と連続する床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上との間を確実に行き来することができる。

【0031】

また、本実施の形態の複数のユーティリティー部 6, 6 …のうち、前記居住領域 1 0, 1 2, 1 3, 1 5 に向かって開口するユーティリティー部 6, 6 …は、天井高が 0.9 m ～ 1.4 m の収納空間とされている。

これによって、建物本体 1 内に複数の収納空間が設けられることになるので、前記各階 2, 3, 4 の床 2 a, 2 b, 3 a, 3 b, 4 a, 4 b 上に収納スペース等を設ける必要がない。

40

また、この収納空間の天井高を 0.9 m ～ 1.4 m とすることによって、この収納空間に人が入って、何とか作業ができる最低限の高さを確保できるとともに、建物本体 1 の高さを、隣接する建物に日照等の影響を及ぼさない程度に抑えることができる。

さらに、収納空間の天井高が 0.9 m ～ 1.4 m であれば、通常の部屋の半分程度に抑えられることになるので、天井高が 0.9 m ～ 1.4 m の収納空間とされたユーティリティー部 6 を、前記居住領域 1 0, 1 2, 1 3, 1 5 に確実に割り当てることができる。

【0032】

一方、本実施の形態において、前記居住領域 1 4 に向かって開口するユーティリティー部 6 は、図 1 および図 5 に示すように、勉強部屋とされている。

なお、この勉強部屋としてのユーティリティー部 6 は、前記居住領域 1 4 だけでなく、

50

前記居住領域 15 と、前記階段室 7 に向かって開口している。これによって、ダイニング 15a やキッチン 15b で作業をしながら、子どもの様子を見ることができたり、行き来が容易でコミュニケーションを取りやすいという利点がある。

また、この勉強部屋としてのユーティリティー部 6 の天井高は、本実施の形態の他のユーティリティー部 6、6…の天井高よりも高く設定されており、前記居住領域 14 の天井高と略等しい。

【0033】

また、前記階段室 7 は、上述のように前記建物本体 1 内の各床をそれぞれ連絡する階段 7a、7b、7c、7d、7e を有している。

前記階段 7a は、前記 1 階 2 の他方の床 2b と、前記 1 階 2 の一方の床 2a との間に架設されており、前記階段 7b は、前記 1 階 2 の一方の床 2a と、前記 2 階 3 の他方の床 3b との間に架設されており、前記階段 7c は、前記 2 階 3 の他方の床 3b と、前記 2 階 3 の一方の床 3a との間に架設されており、前記階段 7d は、前記 2 階 3 の一方の床 3a と、前記 3 階 4 の他方の床 4b との間に架設されており、前記階段 7e は、前記 3 階 4 の他方の床 4b と、前記 3 階 4 の一方の床 4a との間に架設されている。

また、前記階段 7e を除く階段 7a、7b、7c、7d は、前記収納空間としてのユーティリティー部 6、6…との間に壁が立設されて隔絶されている。

【0034】

本実施の形態によれば、前記タワー部 5 が、このタワー部 5 の上下方向に沿って積層するとともに、前記建物本体 1 の各階 2、3、4 の床 2a、2b、3a、3b、4a、4b 上にそれぞれ設けられる居住領域 10、11、12、13、14、15 のうちの任意の居住領域に向かって開口する複数のユーティリティー部 6、6…を備えているので、これら複数のユーティリティー部 6、6…を、例えば収納空間や勉強部屋、書斎、ウォークインクローゼット等として利用できるとともに、各居住領域 10、11、12、13、14、15 のうちの任意の居住領域から、前記複数のユーティリティー部 6、6…を使用することができる。これによって、都市部等の狭小敷地であっても、前記建物本体 1 内に、収納やその他趣味や勉強、家事等にも利用できるスペースを確保することができるので、快適な居住環境を形成することが可能となる。

【0035】

さらに、これら複数のユーティリティー部 6、6…を収納スペースや勉強部屋等として利用できるので、前記タワー部 5 を挟んで、該タワー部 5 の両側に配設される各階 2、3、4 の床 2a、2b、3a、3b、4a、4b 上に収納スペース等を設ける必要がない。これによって、前記各階 2、3、4 の床 2a、2b、3a、3b、4a、4b 上に、前記居住領域 10、11、12、13、14、15 を確実に設けることができるので、従来に比して、比較的多くの数の部屋を確保することができる。

【0036】

また、前記タワー部 5 が、前記複数のユーティリティー部 6、6…に隣接するとともに、前記建物本体 1 内の各床 2a、2b、3a、3b、4a、4b をそれぞれ連絡する階段 7a、7b、7c、7d、7e を有する階段室 7 を備えているので、前記建物本体 1 内の高さの異なる床 2a、2b、3a、3b、4a、4b 間を連絡する動線を確保することができる。これによって、前記建物本体 1 内の各床 2a、2b、3a、3b、4a、4b 間を容易に行き来することができるので、前記複数のユーティリティー部 6、6…を利用しやすくなる。

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図 1】本発明の建物を示すものであり、図 3-5 における A-A 線断面図である。

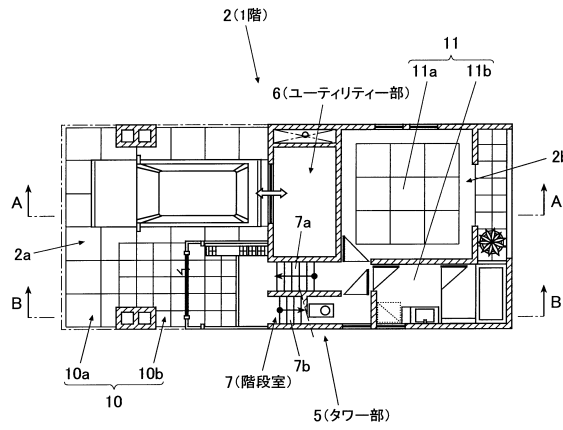
【図 2】同、B-B 線断面図である。

【図 3】図 1 および図 2 の建物の 1 階を示す平面図である。

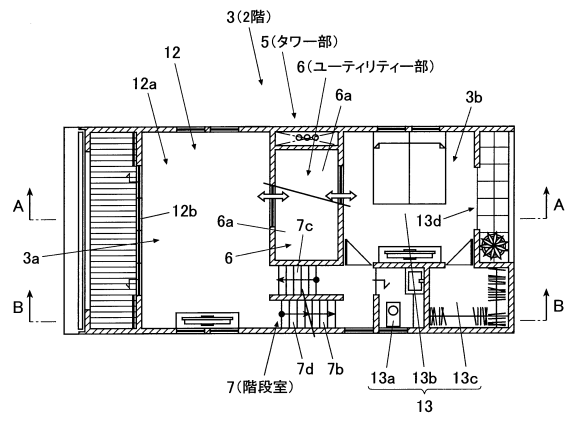
【図 4】同、2 階を示す平面図である。

【図 5】同、3 階を示す平面図である。

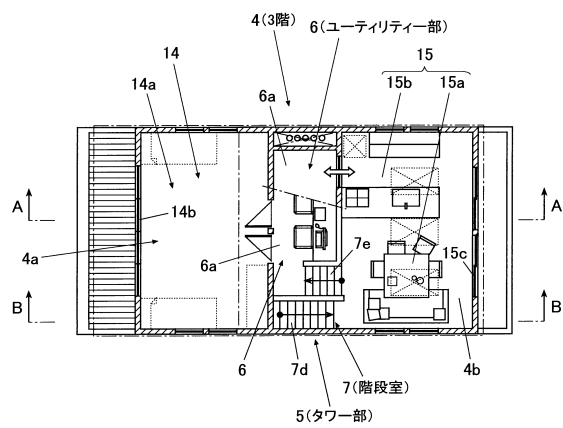
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平11-148693 (JP, A)
特開2003-041785 (JP, A)
特開2002-129757 (JP, A)
特開2006-283356 (JP, A)
特開2005-264610 (JP, A)
特開平07-217232 (JP, A)
特開平04-097037 (JP, A)
特開昭63-078970 (JP, A)
特開2001-073567 (JP, A)
特開2002-4595 (JP, A)
実公平3-16354 (JP, Y2)
特開2006-299803 (JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
E04H 1/02